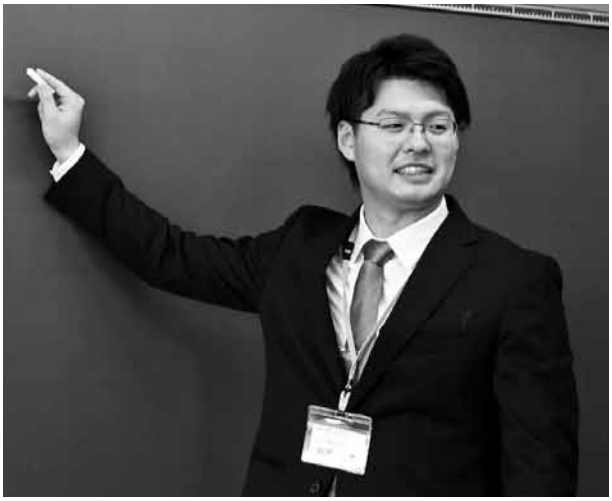
十勝教育研究所　協力員研究

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

～ＩＣＴを活用した「考え、議論する」道徳科の授業を通して～

（２か年継続研究　１年次）

授業者
幕別町立札内南小学校
教諭　金谷　智皓



授業者
士幌町立士幌町中央中学校
教諭　祢津　　豊

Ⅰ　研究の概要

１　研究主題
２　主題設定の理由
３　研究の仮説と内容、構造図
４　研究計画
５　検証計画
６　研究の推進
７　研究の組織
８　研究推進計画

Ⅱ　研究の視点と内容

１　研究の視点
２　研究の内容

Ⅲ　授業実践

１　小学校授業実践１
２　小学校授業実践２
３　小学校授業実践記録
４　中学校授業実践１
５　中学校授業実践２
６　中学校授業実践記録
７　資料「道徳科におけるＩＣＴ活用例」

Ⅳ　研究のまとめ

１　研究の内容に関わる本時の検証
２　アンケート結果からの検証
３　研究内容の検証
４　研究１年次の成果と課題

Ⅴ　研究協力校紹介／参考・引用文献

Ⅰ　研究の概要

1　研究主題

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究（１／２年次）
～ＩＣＴを活用した「考え、議論する」道徳科の授業を通して～

2　主題設定の理由

今日的な課題　学習指導要領の趣旨から

「主体的・対話的で深い学び」を視点に据えた学習指導要領の全面実施が、今年度で小学校は３年目、中学校は２年目を迎える。道徳科においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが目標とされている。
※　（　）内は中学校のみ。

また、令和３年１月の中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して　～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、今後の社会は「Society5.0時代」「予測困難な時代」であることを踏まえ、新学習指導要領の着実な実施とこれからの学校教育に必要不可欠な基盤的ツールであるＩＣＴを最大限活用し、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」としている。

北海道の現状から

北海道の子どもたちの実態としては、令和３年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「自己肯定感や自尊感情」「言葉で適切に表現すること」「他者の異なる意見を受容したり認めたりすること」が、全国平均より低い傾向にあることが明らかとなった。また、「ＩＣＴ機器の活用」は小学校で全国平均を上回ったが、小・中学校ともに肯定的回答は50％以下の低い傾向にとどまっている。

質　問		校種	肯定的回答率（北海道）	肯定的回答率（全国）	全国比
(6)	自分には、よいところがあると思いますか	小	７２．６	７６．９	－４．３
		中	７４．５	７６．２	－１．７
(14)	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	小	６７．７	７０．３	－２．６
		中	７２．２	７５．２	－３．０
(15)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小	６９．２	７０．１	－０．９
		中	７２．２	７４．７	－２．５
(27)	あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	小	４６．２	３９．０	＋７．２
		中	３４．４	３４．８	－０．４

※　質問番号（６）（14）（15）の肯定的回答率については、「１．当てはまる」「２．どちらかといえば、当てはまる」に回答した率を表す。また、（27）については、「１．ほぼ毎日」「２．週１回以上」と回答した率を表す。

研究1年次の取組の成果と課題

平成30年３月に北海道教育委員会が策定した「北海道教育推進計画　平成30年度～令和４年度」の「施策項目８　道徳教育の充実」において、相互に個性や立場を尊重する態度、思いやりの心などの豊かな心を育成するため、道徳教育の授業改善を推進することを重要視している。さらに、令和３年８月に北海道教育委員会は、成果普及資料「自尊感情、規範意識を醸成する道徳教育の充実～豊かでたくましい心を育むために～」を公表している。この資料でも、自尊感情や規範意識を高めることで子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、人が互いを尊重し協働して社会を形づくっていく上で求められるルールやマナーを身に付けることができると記されている。

また、平成30年に経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）が実施した生徒の学習度到達調査（ＰＩＳＡ）において、日本はほとんどの教科で、授業でのデジタル機器利用時間がＯＥＣＤ加盟国の最下位であったという結果も公表されている。つまり、日本の教育はＩＣＴを活用することにおいて、世界の教育から大きな遅れをとっている実態が明らかとなった。これを受けて、令和元年12月に全国の小・中学校のＩＣＴ環境充実のための補正予算が編成された。これがいわゆるＧＩＧＡスクール構想であり、その後に発生したコロナ禍の影響を考慮し当初の予定を前倒しして進められ、令和２年度にはほぼ全ての小・中学校で１人１台端末と高速インターネット回線が整備された。現在、全国の小・中学校では先生方が研修を重ね試行錯誤を繰り返しながら、授業等での１人１台端末の効果的な活用を目指した授業実践が積み重ねられているところである。

以上のように、北海道の子どもにとっては、「自分自身のよさや他者の異なる意見を認め、受容すること」や、「言葉による表現」に対して課題があることが考えられる。また、日本の教育にとって喫緊の課題である授業実践での「ＩＣＴの効果的な活用」についても、研究を進めていく必要性があると考える。

また、道徳科の授業改善についても、教科化される以前から今に至るまで継続的にその必要性が叫ばれている。年間35時間の授業時数の量的確保はもちろんのこと、「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることが、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながっていく。そのためには、授業の中で見方・考え方を働かせながら、道徳的価値やそれらに関わる諸事象について多面的・多角的に考え、自分自身との関わりの中で深めていくことが重要となる。
そのような学習過程の中において、ＩＣＴを効果的に活用していくことにより、道徳科の学びをより充実したものへと改善できるのではないかと考えている。ただし、その際に重要なことは、ＩＣＴの活用は道徳科の目標にある道徳性を養うための１つの手段であり、目的ではないという認識である。手段であるはずの「ＩＣＴを活用すること」が目的となれば、教師主体の「活動あって学びなし」の授業となることが危惧される。その点には十分留意しながら、研究を進めていくことが大切であると考えている。
そして、道徳の一単位時間の授業だけではなく、学期や年間など一定の期間を経て道徳的価値の理解を深めた上での行動などから子どもの変容を見取る必要がある。そのため、道徳科の授業の積み重ねを踏まえた、学校生活全般を通じての道徳性の育成にも目を向けていきたい。

以上のことから、本研究では、道徳科におけるＩＣＴを活用した「考え、議論する」授業を通して、子どもたちに「自他を認め合う心」を育むことを目指し、実践的な研究を進めたいと考え、本主題を設定する。

3　研究の仮説と内容、構造図

研究主題

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

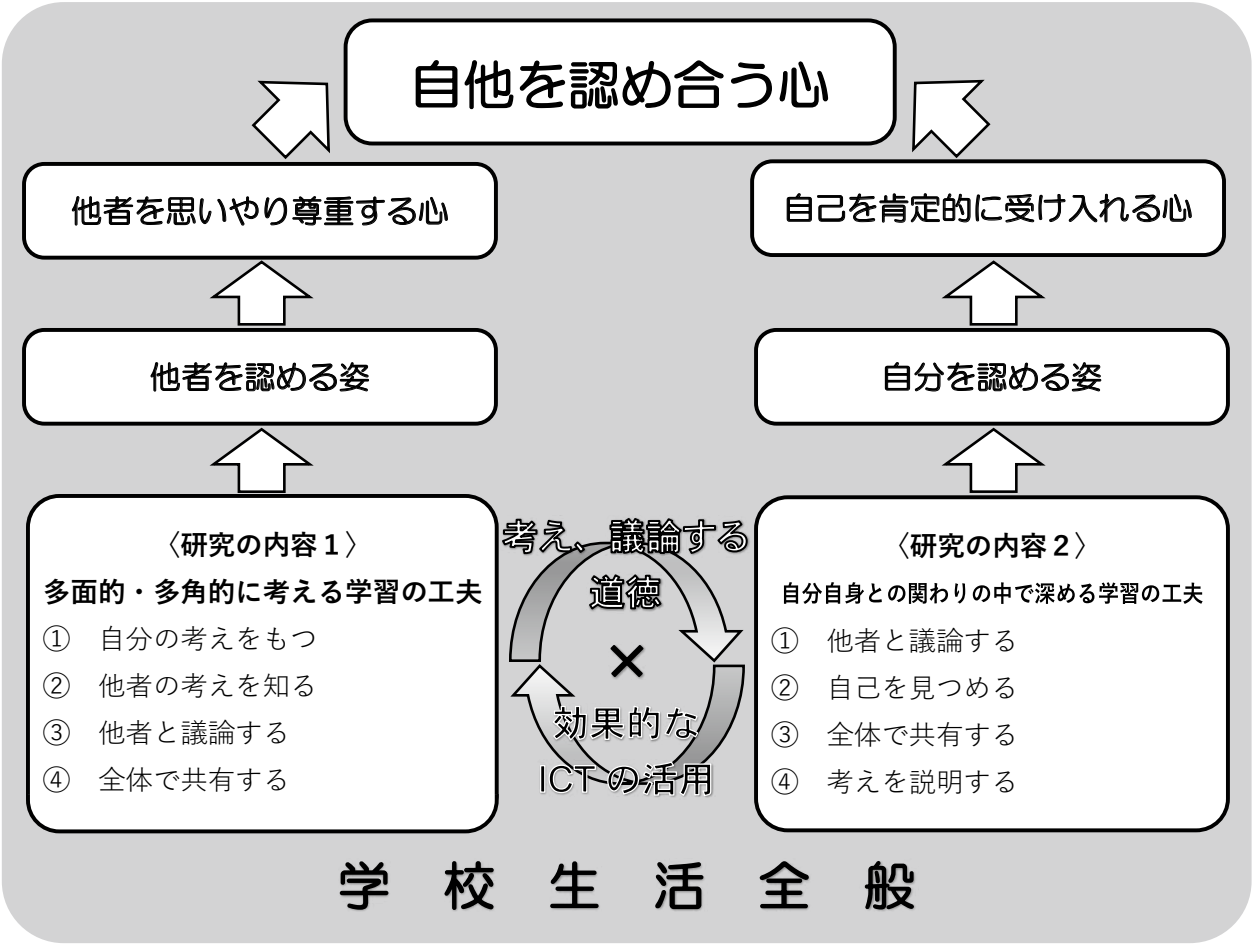
～ＩＣＴを活用した「考え、議論する道徳」の授業を通して～

研究の仮説

ＩＣＴを活用した「考え、議論する道徳」の授業を通して、多面的・多角的に捉えたり、自分自身との関わりの中で深めたりすることで、自他を認め合う心が育まれるだろう。

研究の内容

１　多面的・多角的に考える学習の工夫	２　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫



4　研究計画

⑴　第１年次（令和４年度）	⑵　第２年次（令和５年度）
①　理論研究 ②　子どもの実態把握 ③　多面的・多角的に考える学習の工夫 ④　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫 ⑤　協力員による授業実践 ⑥　１年次の検証のまとめ ⑦　２年次に向けた仮説、研究内容、研究計画、検証計画の修正	①　理論研究 ②　子どもの実態把握 ③　自他を認め合う心を育むための研究内容の検討について ④　協力員による授業実践 ⑤　２年次の検証のまとめ ⑥　２年間の研究の成果

5　検証計画

⑴　検証内容

①　多面的・多角的に考える学習の工夫により、他者を思いやり尊重することのできる心を育むことができていたか。

②　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫により、自己を肯定的に受け入れる心を育むことができていたか。

③　自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり、尊重できる心が育まれていたか。

⑵　検証方法

①　ノートや端末などへの記述の見取り

②　授業前後の子ども・授業者へのアンケート調査の分析（全体・抽出）

③　授業に参加する姿や、事後の学校生活全般からの見取り

6　研究の推進

⑴　研究方法

担当所員と研究協力校との共同研究とし、研究協力員の実践を通して検証する。

7　研究の組織

⑴　担当所員

松村　理史　・　柴田　悠二

⑵　研究協力員

幕別町立札内南小学校　　金谷　智皓　教諭

士幌町立士幌町中央中学校　祢津　　豊　教諭

8　研究推進計画（令和４年度　１／２年次）

月	研究の推進内容	諸会議
４	・研究主題、研究計画等の作成	十勝教育研究所業務計画会議 十勝教育研究所運営委員会
５	・研究の視点、方向性の確認	
６	・研究協力員の委嘱及び研究の概要説明 ・理論研究 ・子どもたちの実態把握	第１回協力員会議（6/9） 十勝教育研究所調査委員会 第２回協力員会議（6/23）【Zoom】
７	・研究実践計画と検証実践計画の策定 ・授業実践における検証方法の検討 ・授業実践１の内容検討・実践（7/12）	十勝教育研究所モニター会議 第３回協力員会議（7/7）【Zoom】 第４回協力員会議（7/12）
８	・授業実践２の内容検討 ・授業実践２の実施（8/30）	第５回協力員会議（8/23）【Zoom】 第６回協力員会議（8/30）
９ １０	・子どもたちの変容の分析、授業実践の分析 ・協力校での継続的な実践 ・授業実践３の内容検討・実践（10/6） ・授業実践４の内容検討・実践（10/20）	第７回協力員会議（9/6）【Zoom】 第８回協力員会議（9/15）【Zoom】 第９回協力員会議（10/6） 第 10 回協力員会議（10/13）【Zoom】 第 11 回協力員会議（10/20）
１１ １２	・協力員研究中間報告（広報誌） ・１年次の検証 ・研究紀要原稿、ダイジェスト版の検討 ・研究発表大会用パワーポイント作成	
１	・研究発表大会打合せ、リハーサル ・ダイジェスト版の刊行、研究のまとめ	
２	・研究発表大会（2/7）	十勝教育研究所研究発表大会
３	・研究紀要の刊行	

Ⅱ　研究の視点と内容

1　研究の視点

⑴　本研究における「自他を認め合う心」

「自他を認め合う心」を、自分を認める心と他者を認める心に分けて考えていきたい。

国立教育政策研究所の生徒指導リーフによると、自分を認める心とは一般的には「自己肯定感」や「自尊感情」と呼ばれている。しかしながら、日本では子どもたちの「規範意識」の重要性も強調されている。それらを併せて考えるならば、まずは「自己有用感」の育成に焦点を当てた学びを進めることが適当ではないかと考えた。「自尊感情」は、自分に対する肯定的な評価という意味合いが強く、他者や社会とはかけ離れた自己評価となるおそれもある。一方、「自己有用感」は、人の役に立った・人から感謝された・人から認められたという、自分と他者との関係を自他ともに肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価である。このことから、「自己有用感」の獲得が「自尊感情」の獲得につながるであろうことは、容易に想像できるであろう。しかし、「自尊感情」が高いことは、必ずしも「自己有用感」の高さを意味しないとも言われていることに注意が必要である。

一方、他者を認める心とは、他者の考えや立場を思いやり尊重することのできる心と考えたい。小学校学習指導要領総則第６の２において、「各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること」とある。一方、中学校学習指導要領総則第６の２においては思いやりという言葉こそないが、「小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をすること、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること（略）に留意すること」との記載があり、小学校で育てた他者を思いやる心を他者や集団・社会との関わりの中で自制し生きていくことができるように育てていくことが書かれている。さらに、小学校学習指導要領総則解説編では「思いやる心は、児童が自立した一人の人間として人生を他者と共に、よりよく生きる人格形成を図る道徳教育の充実を目指す上で不可欠なものである。相手の気持ちや立場を推し量り自分の思いを相手に向けることは、よりよい人間関係を築くために重要である」との記載があり、道徳教育での思いやる心を育むことの重要性が感じられる。

また、これらの自己を認める心と他者を認める心は、偏りがないように育んでいくことが重要だと考える。自分ばかり優先となれば他者には単なる自分勝手やわがままと受け止められ、他者ばかり優先となれば自分自身に自己犠牲や自己抑制を強いることとなり、自他を認め合うことにはならないだろう。よって、これら２つの心をバランスよく育てていくことが大切であると考える。

そこで、本研究では、「自他を認め合う心」を次のように定義した。

> 本研究における「自他を認め合う心」
>
> 自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり尊重できる心

さらに、本研究では、「自他を認め合う心」は道徳科の時間だけでなく、学校生活全般を通して育んでいくため、授業ではその心に向かう姿として、「自分を認める姿」「他者を認める姿」としている。

⑵　「考え、議論する道徳」

「考え、議論する道徳」という言葉は、平成27年３月に一部改正された学習指導要領が公示され、「道徳」が「特別の教科　道徳」となる際に、キャッチフレーズのように用いられていた用語である。

「考える道徳」とは、道徳的価値及びそれに関わる事象を子どもが主体的に考えることである。これにより、道徳的価値と自己との関わりを主体的に捉えることとなり、自分の感じ方や考え方が明

確になる。また、「議論する道徳」とは、子どもと教師が、また子ども同士が話合いなどの対話的な学びを通して、自己の生き方、あるいは人間としての生き方についての考えを深めることができるような授業であるとしている。議論するとは、互いの意見を戦わせるとする捉え方もあるが、それは討論であり、ここでいう「議論」とはある問題について互いの考えを述べ合うことにより、多様な考え方や感じ方を深めることと言えるであろう。異なる意見をもつ他者と議論することによって、多様な感じ方や考え方を知り、多面的・多角的な見方へと発展させることができるのではないだろうか。また、他者と協働して考えることによって、多様な価値観の存在を認識するだけでなく、自分の感じ方や考え方がより明確になっていくとも考える。

「考え、議論する道徳」とは、道徳科での「主体的・対話的で深い学び」であると言えるだろう。

⑶　道徳科における見方・考え方

道徳科における見方・考え方は、下記の通りとなっている。

道徳科の見方・考え方
様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること　　※（ ）内は中学校のみ

この見方・考え方は、道徳科の目標に示された学習活動とほぼ同じ内容である。この学習活動全体が「深い学び」の鍵となる。道徳科における見方・考え方を働かせるとは、答えが１つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」となる学習活動を行い道徳性を養うということだと考える。

⑷　ＩＣＴの効果的な活用

「Ⅰ　研究の概要」でも記載した、令和３年１月の中央教育審議会による答申では、ＩＣＴはこれからの学校教育に必要不可欠な基盤的ツールであり、それを最大限活用していくことが説かれている。さらに、子どもたちがＩＣＴを「文房具」として自由な発想で活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくべきであるとも述べられている。

では、１人１台端末を活用するメリットとは何か。端末を活用することでのメリットは多数あるが、大きく分けると下記の３つであると考える。

学習の個別化	・一人一人が端末を使って、自分に合った学びができる。
瞬時の共有化	・個別に学んだり作業したりしたものを素早く共有することができる。
思考の可視化	・音声言語では消えていたものを端末に記録し、文字言語で残すことができる。

これらのメリットを生かして、ＩＣＴを効果的な手段の１つとして研究を進めていく必要がある。

また、一般的な道徳科の学習指導過程におけるＩＣＴ活用例について、文部科学省の資料では右の表で紹介されている。指導に当たっては、道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための手段としてＩＣＴを活用することが重要だと考える。

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、問題意識をもつ。	・実態や問題の提示 （画像や映像、グラフ等）
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・自分自身との関わりで考える。 ・多面的・多角的に考える。 ・自己の（人間としての）生き方についての考えを深める。	・教材の提示 （画像や映像等） ・自分の考えをもつ （ICT端末に示す） ・他者の考えを知る （ICT端末に共有する） （表やグラフ等） ・話し合う（直接的な対話） ・自己を見つめる （ICT端末に蓄積する）
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	・生活の様子の提示 （画像や映像等） ・外部の方の言葉の提示 （画像や映像等）

【一般的な道徳科の学習指導過程におけるＩＣＴ活用例】
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00014.html

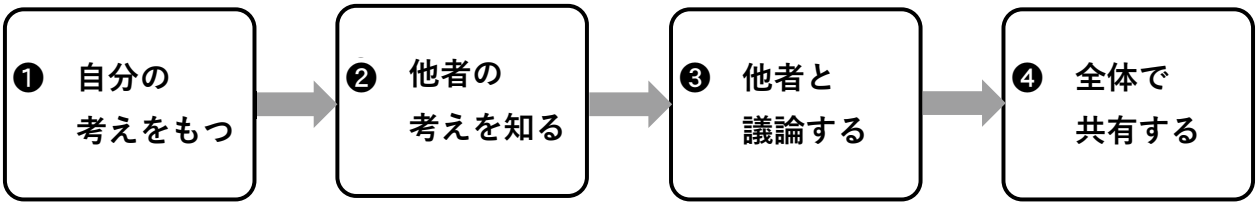
2　研究の内容

本研究では、子どもに自他を認め合う心を育むための具体的な内容として、道徳科の目標に示されている２つの学習活動に着目し、多面的・多角的に考える学習の工夫（研究の内容１）と、自分自身との関わりの中で深める学習の工夫（研究の内容２）の２つを行うこととした。

(1)　多面的・多角的に考える学習の工夫

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える学習活動である。多面的・多角的に考える学習過程の例としては、次のようなものが挙げられる。

多面的・多角的に考える学習過程の例



①　自分の考えをもつ

ここでは、子どもたちが主題に対する興味・関心を高めたり、問題意識を明確にしたりすることで動機付けを図ることが大切である。複数の道徳的価値の違いから生じる問題のどちらの立場を重視するかや、ある道徳的価値に対する受け止め方に対しての自分の考えをもつような学習活動が想定できる。その際、例えば、端末に配信された思考ツール等に自分の考えを入力することなどが考えられ、それにより議論後の考えの変容も捉えやすくなると考えられる。

②　他者の考えを知る

道徳的価値を多面的・多角的に考えるために議論するには、「自分も友達も〇〇という考えで一緒だ」「自分は〇〇だけれど、友達は●●だ」というように、自分と他者の考えの共通点や相違点を明確にする必要がある。また、それと同時により多くの他者の考えを知ることで、なぜそのような考えに至ったのかへの疑問が生じ、その後の議論での深まりも期待できる。

③　他者と議論する

ここでの議論は、①での自分の考えを基にして、様々な感じ方や考え方に触れながら話し合うことが大切である。その際、例えば、②で知った他者の考えや立場の共通点や相違点を端末で見比べるなどして、互いの考えを適切に把握した上で、子ども同士が議論することができる。

④　全体で共有する

議論した後、互いの考えのよさや共感した考えを基にし、道徳的価値に広がりをもたせて考察し、当初の自分の考えを多面的･多角的に深めていくことが大切であると考える。その際、例えば、端末で議論後の考えを全体で再度共有することで、自分の考えを広げたり自分の考えを深めたりすることができると考える。

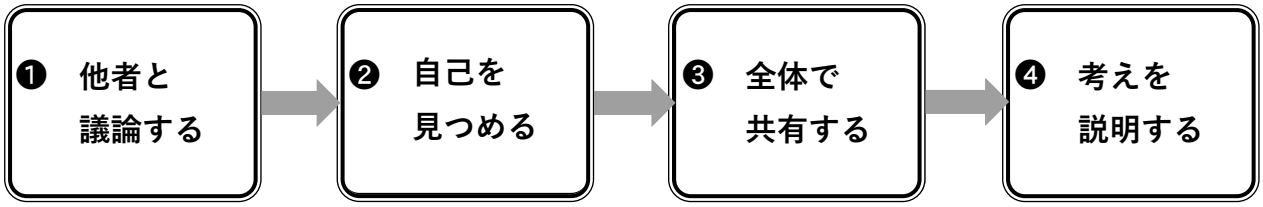
このように多面的・多角的に考える学習の工夫をすることで、他者の考え方に触れ、一面的な見方からより多面的・多角的な見方へと考えを発展することが期待できる。そして、自分とは異なる

意見をもつ友達と議論することなどで他者の考えを受け入れて認め、それが「他者を思いやり尊重する心」を育むことにつながっていくと考える。

⑵　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫

他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める学習活動である。自分自身との関わりの中で深める学習過程の例としては、次のようなものが挙げられる。

自分自身との関わりの中で深める学習過程の例



①　他者と議論する

他者と議論することを通して、１つの道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方や考え方は1つではなく多様であることを理解する。その上で自己を見つめ、じっくりと自分の生き方・人間としての生き方についての考えを深めていけるようにしたい。

②　自己を見つめる

道徳的価値の議論後に、道徳的価値に対しての考えについて改めて自己を見つめノート等に記入する。自己を見つめるとは、道徳的価値の理解において、自分との関わり、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら理解を深めることである。その際、例えば、次の学習過程を見越して、端末に入力したりする活動が考えられる。

③　全体で共有する

書いたり端末に入力したりした考えを全体で共有し、自分にはない感じ方や考え方を知ったり、ぼんやりとしていた思いを的確に言い表している考えに触れたりすることで、更に自分の考えを深めることができるであろう。その際に、例えば、端末を使うことで短時間で多くの考えに触れることができる活動が考えられる。

④　考えを説明する

共有したそれぞれの考えについて説明する活動を行い、その中で生まれた問いなどについて更に考えることで、自分の考えを端末に入力して説明し合う活動が考えられる。それぞれの発表に加え、端末で共有している全体の考えを補助資料として活用することで、友達の考えをより正確に知ることができるであろう。

このように自分自身との関わりで深める学習の工夫をすることで、道徳的価値の理解を自分事として捉え、より深めることが期待できる。そして、自分の考えのよさを友達に知ってもらうことなどにより、自己有用感を高め、それが「自己を肯定的に受け入れる心」を育むことにつながっていくと考える。

Ⅲ　授業実践

1　小学校授業実践１

「権利と義務」

幕別町立札内南小学校　第６学年
授業者　金谷　智皓

(1)　**主題名**　権利と義務

(2)　**教材名**　ピアノの音が……（「新しい道徳　６」東京書籍）

(3)　**ねらい**　権利と義務の関連を考え、相手の権利を尊重するとともに自分の権利を正しく主張し、また、自分に課せられた義務を果たそうとする態度を育てる。

(4)　**学習指導要領との関連と主題設定の理由**

①　**学習指導要領との関連**　内容項目Ｃ－⑿　規則の尊重

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

【平成29年　小学校学習指導要領　特別の教科　道徳より一部抜粋】

②　**主題設定の理由**

高学年段階の子どもは、社会生活上のきまり、基本的なマナーや礼儀作法、モラルなど　の倫理観を育成することが必要となる。だが、日常生活において、権利や義務という観点から、自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重したりすることは少ないと考えられる。

そこで、自他の権利を主張し合うことから起きた「マンションの騒音トラブル」の実話から「規則の尊重」について理解できるようにしたい。法やきまりを進んで守り、自他の権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことについて考え、積極的な行動ができるような態度を育んでいきたい。

(5)　**本時の展開**

指導過程	○　主な発問や教師の指示　・予想される子どもの反応	指導上の留意点（□）　評価（☆） 研究との関わり ［　　］
導入	○　休み時間に、どのように過ごす権利があるか考える。 ・静かに過ごす権利　・自由に遊ぶ権利　など ○　誰もが楽しく過ごす権利があることを知る。 ○　本時の課題を確認する。	□　内容項目との関連を図るため、自分事として捉えられる休み時間についての問いを提示する。また、権利という言葉を説明する。
	課題　お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。	
	○　資料を読む際に、何が原因で互いの権利がぶつかったのかを考え、範読を聞くことを確認する。	□　学習課題や教材を読む際の観点を提示し、内容項目を焦点化する。
展開	○　教材文を読み、あらすじを知る。	□　範読や挿絵によって、短時間で教材の内容を確認する工夫。
	男の人と女の人のどちらに共感できますか。	
	○　個人思考（どちらに共感できるかについて、理由も交えてワークシートに記入する）。 ○　全体で交流する。 ・静かに生活したいのに、うるさくて迷惑してい	□　男の人と女の人のどちらに共感できるか、自分の考えをもつ。 **【❶　自分の考えをもつ】**

展開	るから男の人に共感できる。 ・ルールを守った上で、ピアノを弾いているから女の人に共感できる。 ・自分の権利ばかり主張しているから、どちらにも共感できない。	□　お互いの考えを発表し合い、それぞれの考えを知る。 **【❷　他者の考えを知る】**
	あなたが岡さんの立場なら、どのように問題を解決しますか。	
	○　プリントに自分の考えを書き、友達と議論する。 ・裁判を起こす。 ・ルールを変更する。 ・ゆずれることはないか考える。 ・我慢する。 ○　議論した内容を全体で交流する。 ○　教科書の続きを紹介し、大切なことは何か議論する。	□　考えの共通点や相違点を意識しながら議論する。 **【❸　他者と議論する】** □　必要に応じて問い返し発問をする。
終末	**お互いの権利を大切にするために、これからどんなことを意識して生活していきたいですか。**	
	○　本時の学習の振り返りを記入し、交流し合う。 ・自分の権利だけでなく、友達や周りの人のことも思いやったり譲り合ったりすることが大切。 ・お互いの権利を大切にするために、相手の考えや権利を受け入れることも必要。 ・自分が我慢すれば済むと思っていたが、勇気を出して自分の権利を伝えることも大事。 ○　感想を書き、観点別に自己評価をする。	□　議論後に互いの考えのよさや共感した考えを基に、自分の考えを多面的・多角的に深める。 **【❹　全体で共有する】** □　振り返ることで、学習内容の深まりや自己の思考の変容について気付くように促す。 ☆　自他の権利の尊重について、多面的・多角的に考えようとしていたか。【ワークシート】

⑹　板書計画

7/21（木）　ピアノの音が……

お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。

どちらに共感できる？

女の人
- ピアノをひく権利があるから。
- ルールを守っているから。

男の人
- うるさいのはいやだから。
- 迷惑しているからやめるべき。

どちらともいえない
- どちらも自分の権利ばかり主張しているから。

どのように解決したらよいだろうか。
- 裁判をする。
- どちらかががまんする。
- ルールを変更する。
- ゆずれる部分がないか考える。
- 納得するまで話し合う。

お互いの権利を大切にするためには…？
- 思いやりやゆずり合い
- 相手の考えや権利を受け入れる。
- 自分の権利を伝える。

自分の権利

どちらも大切にしたい

相手の権利

2　小学校授業実践２

「明るく生きる」

幕別町立札内南小学校　第６学年
授業者　金谷　智皓

⑴　**主題名**　明るく生きる

⑵　**教材名**　手品師（「新しい道徳　６」東京書籍）

⑶　**ねらい**　どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

⑷　**学習指導要領との関連と主題設定の理由**

①　**学習指導要領との関連**　内容項目Ａ－⑵　正直、誠実

誠実に、明るい心で生活すること。

【平成29年　小学校学習指導要領　特別の教科　道徳より一部抜粋】

②　**主題設定の理由**

高学年段階の子どもは、誠実に明るく生活することの大切さについてよく理解している。しかし、実生活においては、利害関係から不誠実な言動を取ってしまったり、不利な立場にならないようにごまかしたり、嘘をついてしまう子どもも見られる。

そこで、手品師が大劇場のステージに立てるチャンスを捨て、男の子と交わした約束を守るという、「手品師」の話から誠実について理解できるようにしたい。そして、良心に従って精一杯努力したり、人に対して陰ひなたなく真心をもって接したりしようとする心情を育てたい。

⑸　**本時の展開**

指導過程	○　主な発問や教師の指示　・予想される子どもの反応	指導上の留意点（□）　評価（☆） 研究との関わり
導入	○　「誠実」とは、どのようなことか考える。 ・真面目な人　・裏切らない人 ・真心があって偽りがなく真面目なこと　など ○　本時の課題を確認する。	□　テキストマイニングしたアンケート結果をモニターに表示し、「誠実」についての共通意識がもてるようにする。
	課題　誠実な行動をするときには、どのようなことを大切にしたらよいだろうか。	
	○　手品師はどんなことに迷っていたかを考えながら範読を聞くことを確認する。	□　学習課題や教材を読む際の観点を提示し、内容項目を焦点化する。
展開	○　教材文を読み、あらすじを知る。	□　範読や挿絵によって、短時間で教材の内容を確認する工夫。
	あなたが手品師なら、「男の子との約束」と「大劇場に行く」のどちらを選びますか。	
	○　個人思考（Google Forms にどちらを選ぶかを入力する）。 ・夢だった大劇場より先に約束した男の子。 ・男の子を悲しませたくないから男の子。 ・貧乏な生活から抜け出せるなら大劇場。 ・夢を叶えたいから大劇場を選ぶ。 ○　全体で交流する。	□　自分が納得し、後悔しない生き方などにも触れられるように、必要に応じて問い返し発問をする。 □　多様な考えに触れ、自己の考えを深めるために、友達と議論する。 **【❶　他者と議論する】**

展開	**約束を守ることを決断した手品師は、何を大切にしたかったのだろうか。**	
	○　個人で考える（スプレッドシートに自分の考えを入力する）。 ・男の子の笑顔 ・男の子との約束 ・後悔をしたくないという思い ・自分の思い	□　中心発問をし、ねらいを焦点化する。 □　どちらを選ぶかについてではなく、「真心をもつこと」とはどのようなことなのかを深められるようにする。
	○　友達と交流する。	□　誠実に行動しようとするときの気持ちを自分との関わりで考える。**【❷　自己を見つめる】**
	○　互いの考えを全体で交流し、共有する。	□　自分と友達の考えを交流し、多様な考えを聞く。 **【❸　全体で共有する】**
終末	**「誠実」について、考え方はどう変わりましたか。 また、これからどんなことを意識して生活していきたいですか。**	
	○　本時の学習の振り返りをスプレッドシートに記入する。 ・誠実であるためには他者を思いやることが大切。 ・自分自身が納得できるかどうかを考えることが大切。 ・自分も後悔しないような選択をしたい。	□　共有後に互いの考えのよさや共感した考えを基に、自分の考えを深め、説明する。 **【❹　考えを説明する】**
	○　感想を書き、観点別に自己評価をする。	□　振り返ることで、学習内容の深まりや自己の思考の変容について気付くように促す。 ☆　誠実な行動について、自分の生活を振り返り、考えようとしていたか。【スプレッドシート】

⑹　板書計画

10/6（木）　手品師

誠実な行動をするときには、どのようなことを大切にしたらよいだろうか。

あなたなら「男の子との約束」と「大劇場に行く」のどちらを選びますか。

男の子との約束
・がっかりさせたくないから。
・約束を守ろうと思ったから。

大劇場
・生活が変わるかもしれないから。
・二度とないチャンスだから。

子どもへの思い ⟷ 自分への思い

迷いに迷う　葛藤

約束を守ることを決断した手品師は、何を大切にしたかったのだろうか。

・子どもへの思い
・約束を守ること
・男の子の信頼

・自分が納得できる
・自らの誇り

自分への思い　自分自身に誠実

どちらも誠実

・誠実であるためには、他者を思いやることが大切である。
・自分自身が納得できるかどうかを考えることも大切である。

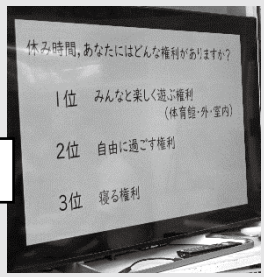
3　小学校授業実践記録

研究の内容１　多面的・多角的に考える学習の工夫	≪**あらすじ**≫　「夜 10 時から朝 7 時までは静かにする時間帯」というルールをつくり、トラブルを防ごうとしたマンション管理人の岡さん。しかし、「隣の住人のピアノの音がうるさい。静かに生活する権利があるから裁判を起こす」といった住人の苦情が岡さんのもとへ。岡さんは双方の住人に対し、率直に話し合うことを提案する。岡さんは「お互いが気持ちよく生活するにはどうしたらよいか」を考えることや、普段からの人間関係づくりが大切であると実感する。
主題名　「権利と義務」	
教材名　「ピアノの音が……」	
内容項目　C-⑿　規則の尊重	

導入

1　身近な事例から権利について考える

皆さんは休み時間に、どのように過ごす権利があるでしょうか？この前にとった、皆さんのアンケート結果を見てみましょう。



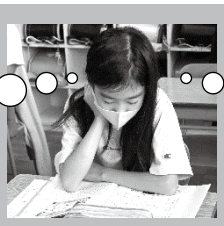
ＩＣＴの活用

課題：お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。

展開

2　教材文を読んで、あらすじを知る

岡さんはトラブル防止のために、静かにする時間帯を決めていたんだね。



静かにする時間帯じゃないときのピアノの音がうるさいのか…。

3　男の人と女の人のどちらに共感できるか考えた後、全体で交流し合う

男の人と女の人のどちらに共感できますか？

男の人だな。静かに生活したいのに、迷惑しているから。

女の人はルールを守っているんだけどね…。

【研究との関わり】
❶　自分の考えをもつ

【研究との関わり】
❷　他者の考えを知る

4　自分が岡さんであるならば、どのように問題を解決するか、議論を通して、多面的・多角的に考える

２人とも気持ちよく過ごすことができるように、ルールを変えれば、いいんじゃないかな？

『考え、議論する』

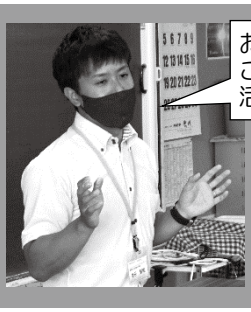
あなたが岡さんの立場なら、どのように問題を解決しますか？

ルールの変更もいいけど、お互いが納得できるまで話し合うのも、大事なんじゃないのかな？

【研究との関わり】
❸　他者と議論する

終末

5　学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現への意欲を高める



お互いの権利を大切にするためにこれからどんなことを意識して生活していきたいですか？

相手のことを考えたり、譲り合ったりしながら生活することが大切だと思いました。

【研究との関わり】
❹　全体で共有する

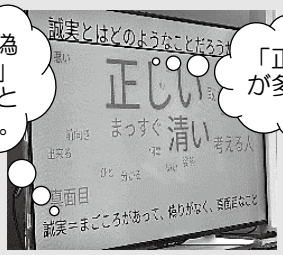
研究の内容２　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫 主題名　「明るく生きる」 教材名　「手品師」 内容項目 A-⑵　正直、誠実	≪**あらすじ**≫　腕はいいが売れない手品師の夢は、大劇場で華やかに手品をすること。ある日、町で出会った小さな男の子に声を掛けると、父親が亡くなった後、母は働きに出て帰ってこないと言う。手品師は手品を見せて元気付け、明日も来ると約束する。しかし、その夜、「明日、大劇場に出演してほしい」と友人から電話が来る。男の子との約束と、大劇場の夢とで迷いに迷う手品師だったが友人に断りを入れる。翌日、手品師は男の子の前ですばらしい手品を見せるのだった。

導入

1「誠実」とはどのようなことか？事前アンケートの結果を知る

みんなは「誠実」とはどんなことだと思っているのかな？

「真心」「偽りがない」「真面目」ということか。



「正しい」が多いね。

ＩＣＴの活用

課題：誠実な行動をするときには、どのようなことを大切にしたらよいだろうか。

展開

2 教材文を読んで、あらすじを知る

手品師は腕がいいのに、貧しいんだね…。

大劇場に行くことよりも、男の子との約束を選んだんだね。

3「男の子との約束」「大劇場に行く」のどちらを選ぶか考え、議論する

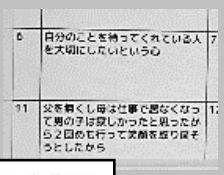
「考え、議論する」

やっぱり、手品師のように、男の子との約束を守る方が誠実だよ！

でも、自分の夢だった大劇場を諦めることが誠実なの？

【研究との関わり】
❶　他者と議論する

4 男の子との約束を守った手品師は何を大切にしたかったのかを考える

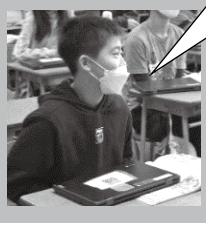


ＩＣＴの活用

【研究との関わり】
❷　自己を見つめる

【研究との関わり】
❸　全体で共有する

5 互いの考えを全体で交流し、共有する



誠実であるためには、自分自身が納得できるかどうかや、後悔しないように考えることが大切だと思います。

自分の夢も大切だけど、手品師は男の子の笑顔を大切にしたかったんだと思います。

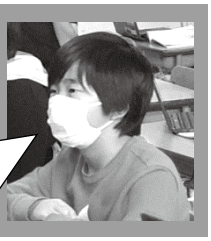
【研究との関わり】
❹　考えを説明する

終末

6 学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現の意欲を高める

誠実とは真面目で真っすぐなこと。約束は守るべきだと思ったので、正しいと思うことをしていきたい。

誠実かどうか考えるとき、他者を思いやることも大切だと思った。後悔しないような選択をしていきたい。



4　中学校授業実践１

「だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して」

士幌町立士幌町中央中学校　第１学年
授業者　祢津　　豊

⑴　**主題名**　だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して

⑵　**教材名**　ごみ箱をもっと増やして（「新しい道徳　１」東京書籍）

⑶　**ねらい**　街の中にごみ箱を増やすかどうかの話合いを通して、公徳心について理解を深め、誰もが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

⑷　**学習指導要領との関連と主題設定の理由**

①　**学習指導要領との関連**　内容項目C―⑽　遵法精神、公徳心

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

【平成29年　中学校学習指導要領　特別の教科　道徳より一部抜粋】

②　**主題設定の理由**

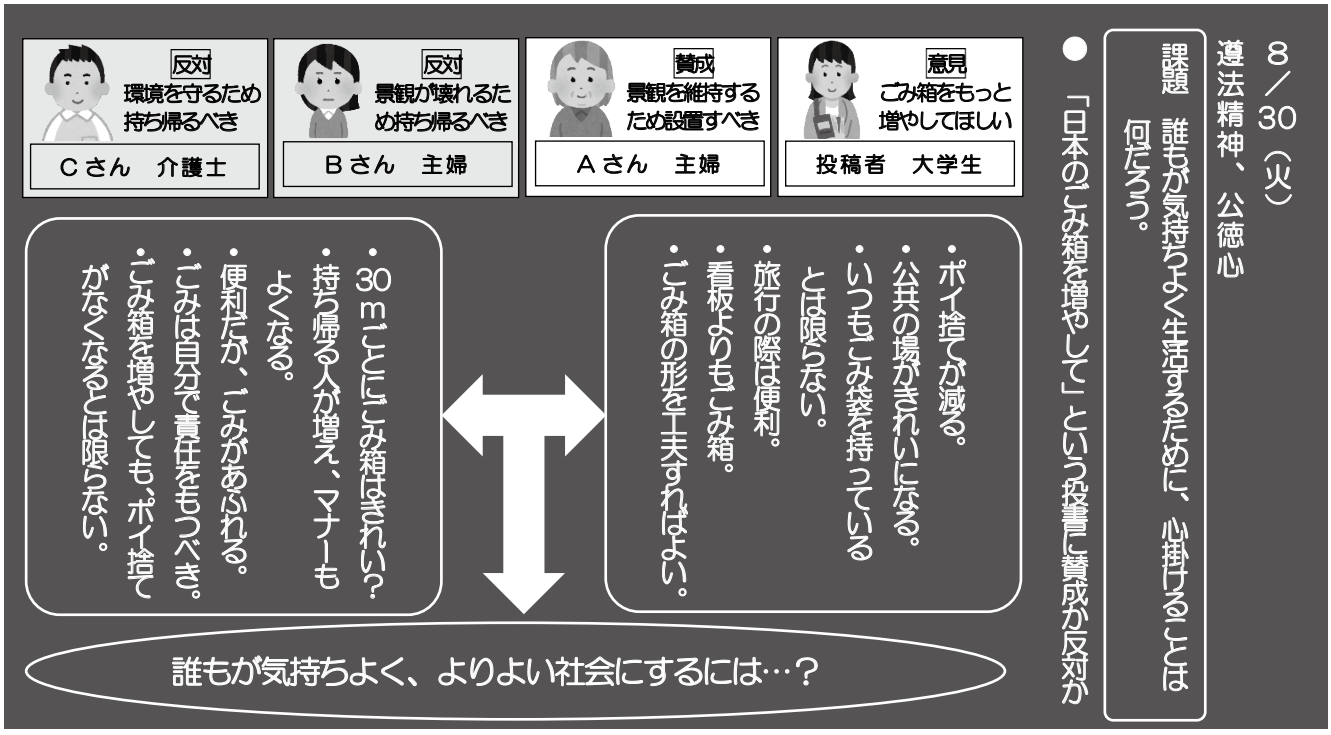
社会があれば何らかのきまりがある。「法やきまり」は、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであることや、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することは大切である。遵法精神は、公徳心によって支えられている。公徳心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公徳を大切にする心である。それが一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。また、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張することは、互いの権利の主張が調和し両立できるようにすることである。自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。これらのことを踏まえて、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら、「私」を大切にする心と「公」を大切にする心の関係について考え深め、よりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てていきたい。

⑸　**本時の展開**

指導過程	○　主な発問や教師の指示　・予想される子どもの反応	指導上の留意点（□）　評価（☆） 研究との関わり
導入	○　コンビニのごみ箱が店内に移動したことを示し、「誰が困っているのか」「どうしたら全員が気持ちよく過ごせるのか」考える。 ・家庭ごみを捨てる人がいて店員が困っている。 ・ごみの分別をして常識の範囲で捨てる。 ○　本時の課題や内容項目を確認する。	□　本時の内容項目に対し、身近な事例を使って子どもたちが自分事として捉えることができるようにする。 □　ワークシートを配布する。
	課題　誰もが気持ちよく生活するために、心掛けることは何だろう。	
展開	○　教材文の投稿者の意見を読み、意見をまとめたカードを示す。 ・賛成　・やや賛成　・やや反対　・反対 Forms を用いて集計し、結果を示す。	□　投稿者の意見について、自分の考えをもち、端末に入力する。 **【❶　自分の考えをもつ】**

展開	○　ワークシートを用いて、A・B・Cの意見を要約する。その後、それぞれの意見を要約したカードを貼り、登場人物や出来事を確かめる。 投稿者・大学生 →ごみ箱をもっと増やしてほしい。 Aさん・主婦 →賛成。景観維持のため、設置すべき。 Bさん・主婦 →反対。景観悪化のため、持ち帰るべき。 Cさん・介護士 →反対。環境保全のため、持ち帰るべき。 **「日本のごみ箱をもっと増やして」という投書に賛成か反対か、理由も含めて考えよう。** ○　個人思考→ワークシートに考えを記入する。 ○　グループ活動→立場を明確にして話し合う。 ＜賛成寄りの意見＞ ・近くのごみ箱にごみを捨てられるから。 ・いつもごみ袋を持っていると限らないから。 ＜反対寄りの意見＞ ・何個もごみ箱がある街はきれいとは言えないから。 ・持ち帰りが増えればマナーもよくなるから。 ○　全体交流。それぞれの班でどのような意見が出たか、どのような話合いになったか発表する。	□　短時間で教材の内容を確認する工夫をし、視覚的に捉えることができるようにする。 □　中心発問をし、ねらいを焦点化する。 □　お互いの考えを発表し合い、それぞれの考えを知る。 **【❷　他者の考えを知る】** □　自分と友達の考えを交流し、考えの共通点や相違点を意識しながら議論する。 **【❸　他者と議論する】** □　必要に応じて問い返し発問をする。
終末	**誰もが気持ちよく生活ができる、よりよい社会にするために、どのような考え方が大切だろう。** ○　本時で学んだことをどのように日常生活で生かせるか、「自分の考え」「再度、投書の意見に賛成か反対か」「自己評価」について Forms を用いて入力し、集計する。	□　議論後に互いの考えのよさや共感した部分を基に、自分の考えを多面的・多角的に深める。 **【❹　全体で共有する】** ☆　遵法精神、公徳心について、多面的・多角的に考えようとしていたか。【ワークシート】

⑹　板書計画



5　中学校授業実践２

「心の弱さを乗りこえるために」

士幌町立士幌町中央中学校　第１学年
授業者　祢津　　豊

(1)　**主題名**　心の弱さを乗りこえるために

(2)　**教材名**　銀色のシャープペンシル（「新しい道徳　１」東京書籍）

(3)　**ねらい**　「ぼく」の心の弱さについて考える話し合いを通して、よりよく生きる喜びについて理解を深め、自らの弱さを克服しようとする態度を育てる。

(4)　**学習指導要領との関連と主題設定の理由**

①　**学習指導要領との関連**　内容項目Ｄ－㉒　よりよく生きる喜び

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。

【平成29年　中学校学習指導要領　特別の教科　道徳より一部抜粋】

②　**主題設定の理由**

人間には誰にも長所と短所がある。強さと弱さという言葉に言い換えられることもあるだろう。「よりよく生きる」ためには、自分の弱さを客観視して見付け出し、素直に受け止めることが肝要である。本授業では、教材文をきっかけとして子どもが日常生活を振り返り、自分自身の弱さに気付くことができるような場面を設定していきたい。

また、せっかく気付いた自分の弱さをそのままにするのではなく、今後どうすることによって「よりよく生きる喜び」につながるのか、他者との関わりの中で考えを深めることにも留意した授業を行い、自らの弱さを克服しようとする態度を育みたい。

(5)　**本時の展開**

指導過程	○　主な発問や教師の指示　・予想される子どもの反応	指導上の留意点（□）　評価（☆） 研究との関わり
導入	○　過去に自分がした「ずるいこと」を振り返る。 ・親に嘘をついてゲームをした。 ・宿題をしていないのに忘れただけと言った。 ・失敗を友達のせいにした。 ○　本時の課題や内容項目を確認する。	□　教材ほど重大でなくてよい。 □　子どもが発表しにくい場合は、教師から例を挙げる。 □　ワークシートを配布する。
	課題　どうしたら自分自身の心の弱さを克服することができるだろう。	
展開	○　教材文を読み、ぼくの弱さやずるさを書き出す。 ・拾ったシャープペンシルを「自分で買った」と言って、周りに嘘をついた。 ・合唱の失敗を周りのせいにした。　など	□　内容の読解を兼ねて、音読を聞きながら書くことで、教材文の理解を深める。
	あなたは、ぼくの気持ちにどれくらい共感できますか。	
	○　ぼくの心の弱さが表れている次の３つの行動について、そのときの気持ちにどれくらい共感できるか考え、Forms で回答する。	□　中心発問をし、ねらいを焦点化する。 □　Forms には共感の度合いを４段階で回答し、理由については記入しない。

展開	①　拾ったシャープペンシルを、「自分で買った」と嘘をついたこと。 ②　泥棒扱いしてきた健二や、シャープペンの１本ぐらいにこだわる卓也に腹を立てたこと。 ③　合唱の失敗をテノールパートのみんなのせいにしたこと。 ○　学級における共感の度合いをグラフで示しながら、それぞれの理由について周囲と議論する。 ・周りの目を気にして本心とは違うことを言ってしまっただけなので、共感できる。 ・自分が悪いのに、それを他人のせいにしているので共感できない。 ・自分も似たようなことをしてしまった経験があるので、共感できる。	□　ぼくの心情を踏まえ、自分だったらこうするという思いを基に議論する。 **【❶　他者と議論する】** □　自身の経験に結び付けている意見を取り上げ終末へつなげる。 □　必要に応じて問い返し発問をする。
終末	**心の弱さを乗り越えるために、これからどのようなことを意識して生活していきたいですか。** ○　各自でワークシートに考えを記入する。 ○　班で話し合い、その内容を Excel に入力する。 ・嘘をつかないようにする。 ・自分で考え、周りに流されないようにする。 ・他者への意識を大切にし、自己中心的な行動を取らないようにする。 ○　班の中で「どのような意見が出たか」「どのような話合いになったか」について、電子黒板を使い全体交流する。 ○　自分の心の弱さを振り返り、全体交流の内容から今後の自分の生活に生かしたいことを選択する。その理由をペアや近くの友達と確認し合う。 ○　「自己評価」「感想」について Forms に入力し、集計する。 ○　Forms の集計画面を提示し、感想を紹介する。	□　自分の生活経験を振り返り、これからどうするかという視点をもち個人思考する。 **【❷　自己を見つめる】** □　ＩＣＴを用いて、自分たちの生活に生かせる意見を広く共有する。**【❸　全体で共有する】** □　全体交流の内容から自分自身で生かしたいものを考え、の理由を友達に伝え合う。 **【❹　考えを説明する】** ☆　学習内容の深まりや、自己の思考の変容について気付いている。 【ワークシート・端末】

⑹　板書計画

10／20（木）
よりよく生きる喜び

課題　どうしたら自分自身の心の弱さを克服することができるだろう。

共感できる

共感できない

①
拾ったシャープペンシルを、「自分で買った」と嘘をついたこと

・みんなの前だったので焦りがあった。
・見られてとっさに嘘をついた。
○○%

・勝手に自分のものにしてしまった。
・嘘をついてしまった。
○○%

②
泥棒扱いしてきた健二や、シャープペンの１本ぐらいにこだわる卓也に腹を立てたこと

・自分だけのせいではないと思いたい。
○○%

・自分のせいなのに怒るのはひどい。
・これからどうしよう（不安）。
○○%

③
合唱の失敗をテノールパートのみんなのせいにしたこと

・わざわざ大きな声で言わなくてもいいのに。
○○%

・リーダーという立場なのに…。
・まとめ役のせいにしてしまった。
○○%

●心の弱さを乗り越えるために…

・友達に嘘をつかずに生活するようにする。
・周囲に流されて行動するのではなく、自分で正しいと思った行動がとれるように意識する。
・自分の行動が自己中心的だと感じたら、正直に謝れるようになりたい。

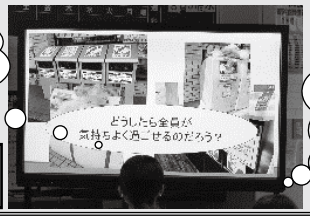
6　中学校授業実践記録

研究の内容１　多面的・多角的に考える学習の工夫	≪**あらすじ**≫　「日本の街の中に、もっとごみ箱が増えた方がよいか」について、ある大学生は「外国に比べてごみ箱が少ないし、観光立国を推進するのであれば増やすべき」と投稿した。この投稿に対し、「きれいな景観維持のためごみ箱を増やすべき」「ごみ箱を増やせば景観が壊れるため、自分のごみは持ち帰るよう促すべき」「日本人の美意識を尊重し、環境を守るためにも持ち帰るよう促すべき」という別の３つの投稿も提示され、ごみ箱を増やすか否かを考える。
主題名　「だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して」	
教材名　「ごみ箱をもっと増やして」	
内容項目　C-(10)　遵法精神、公徳心	

導入

1　コンビニのゴミ箱が店内に移動することで困ることを考える

家庭ごみを捨てる人がいると、店の人は困るよなぁ。



ＩＣＴの活用

お客さんにとっては、外にごみ箱がある方が便利だよ。

課題：誰もが気持ちよく生活するために、心掛けることは何だろう。

展開

2　教材文の最初の投稿文を読み、賛成・反対か考える

なるほど。ごみ箱は増やすべき。賛成！

ＩＣＴの活用

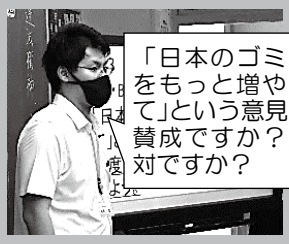
【研究との関わり】
❶　自分の考えをもつ

3　他の３つの投稿文を読み、それぞれの意見の主張をまとめる

Ａの投稿はごみ箱設置に賛成だけど、ＢとＣはどうかな？

立場は同じであっても、理由は違うんだな。

4　ごみ箱を増やすことについて賛成か反対か、自分の考えをもつ



「日本のゴミ箱をもっと増やして」という意見に賛成ですか？反対ですか？

ごみ箱が増えれば、ポイ捨ても減るから賛成。でもなぁ…。

5　ごみ箱を増やすことについて、グループの友達と議論し合う

「考え、議論する」

いつもごみ袋があるわけではないから、ごみ箱を増やしてほしい！

でもさぁ、30mごとにごみ箱のある街が、きれいな街だと言えるの？

【研究との関わり】
❷　他者の考えを知る

【研究との関わり】
❸　他者と議論する

終末

6　学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現への意欲を高める

よりよい社会にするために大切な考え方とは…。

【研究との関わり】
❹　全体で共有する

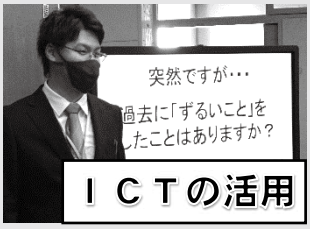
ＩＣＴの活用

ゴミを多く出さない事や何回も使い回しが出来るものを使うこと。
ゴミに対して真面目に考える意識をみんなが持って、ポイ捨てが少なくなれば対処法もより良い物が出てくると思う。

研究の内容２　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫 主題名　「心の弱さを乗りこえるために」 教材名　「銀色のシャープペンシル」 内容項目　D-(22)　よりよく生きる喜び	≪**あらすじ**≫　掃除中に拾ったシャープペンシル。それが卓也のものだと、ぼくは理科の授業中に知る。健二に「おまえ、とったのか」とはやし立てられ、周りの目も気になったぼくは本当のことを言えずにごまかす。放課後、シャープペンシルを卓也のロッカーに突っ込み帰宅すると、卓也からぼくを疑ったことをわびる電話が来る。いたたまれなくなったぼくはさまよい歩き、自分自身のことを見つめ直す。満天の星を見て深呼吸したぼくは、卓也の家へ向かって歩き出す。

導入

1　自分自身の経験から、「ずるさ」について考える



ＩＣＴの活用

親に嘘をついて、ゲームしちゃった。

失敗を人のせいにしてしまった。

課題：どうしたら自分自身の心の弱さを克服することができるだろう。

展開

2　教材文を読み、登場人物の「弱さ」や「ずるさ」を捉える

卓也に本当のことを言えなかったんだな。

友達に責められたり、疑われたりして、つい弱さが出たんだな。

3　「ぼく」のした３つの行動について、自分自身との関わりで考え、端末に入力する

①～③の行動をしてしまった「ぼく」の気持ちに、どれくらい共感できるかな？

①　拾ったシャープペンシルを「自分で買った」と嘘をついたこと
②　自分を疑ってくる健二や卓也に腹を立てたこと
③　合唱の失敗を他のパートのせいにしたこと

4　集約された意見を把握し、それぞれの理由について議論する

「考え、議論する」

①と②は共感できるけど、③は共感できないな。

全ての行動で、他人のせいにしているから、全部共感できなかったよ！

【研究との関わり】
❶　他者と議論する

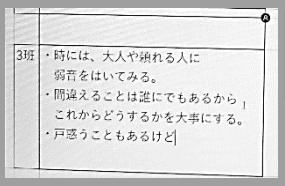
終末

5　学習を振り返り、よりよい生き方への思いや願いを深め、自己実現の意欲を高める

私の心の弱さを乗り越えるためには…。

ワークシートへの記入

【研究との関わり】
❷　自己を見つめる



各自の考えを班でまとめ、端末に入力して全体で考えを共有

ＩＣＴの活用

【研究との関わり】
❸　全体で共有する

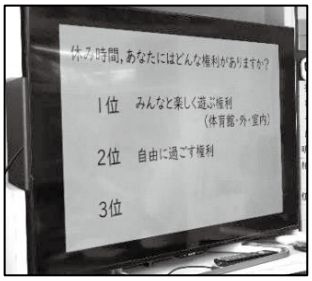
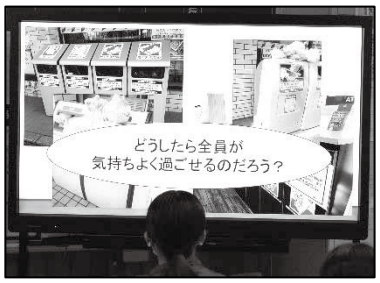
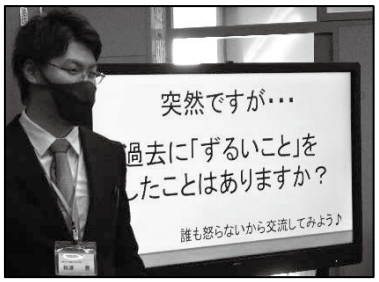
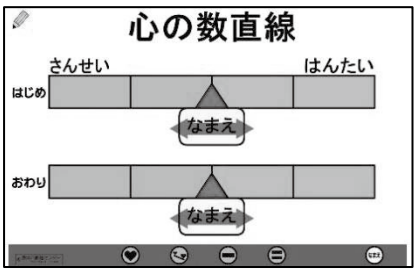
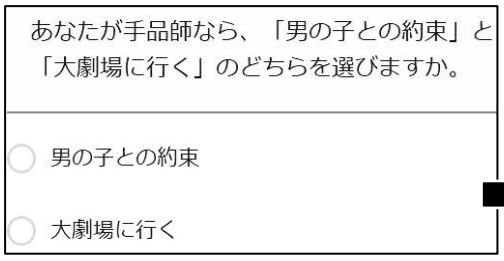
心の弱さを乗り越えるために、これからどのようなことを意識したらいいかな？

僕は、３班の意見にもあるように、間違ったときに今後にどう生かすかが大事だと思うな。

私もそう思う。あと、誰かに相談するのもいいかもね。

【研究との関わり】
❹　考えを説明する

7　資料「道徳科におけるＩＣＴ活用例」

ＩＣＴ活用例	活用するにあたって
⑴　**事前アンケートの結果をモニターで提示★** 小学校授業実践１より　小学校授業実践２より  	○　テキストマイニングとは、文字列を対象としたデータマイニングのことである。文章のデータを単語や文節で区切り、それらの出現頻度や相関、出現傾向、時系列などを解析し、有用な情報を取り出すことができる。
⑵　**内容項目や教材に関する写真や事柄をモニターで提示★** 中学校授業実践１より　中学校授業実践２より   	○　導入で活用することにより、子どもたちの意欲やその時間で扱う内容項目、道徳的価値に関心を高めたり、ペアなどで簡単に交流したりできる。
⑶　**自分の考えや立場を視覚化** **→　熊本市教育センターＨＰ　「心の温度計」など**  矢印を左右に動かすことで、自分の考えを可視化する。 出典：e-net(熊本市地域教育情報ネットワーク) http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/	○　二項対立や二者択一する内容で迷いが生じるようなとき、自分の気持ちを数字で明確に示すことができる。 ○　言葉で説明することが得意ではない子どもでも、簡単に自分の考えを表すことが可能となる。 ○　右側の数直線を使えば、考えの変容が一目で分かる。
⑷　**考えを集約し、自動作成されたグラフを提示★** **→　Forms など** 小学校授業実践２より  	○　Forms で設問を作成し、Classroom などで配布。回答は自動的に集計され、円グラフとして活用したり、閲覧したりすることが可能。 ○　二項対立する内容の際などに、全体の割合が一目で分かる。教師にとっても、その後の学習展開における指導の見通しをもつことができる。

⑸　問いに対する全員の考えを共有★

→　スプレッドシート、Excel、ロイロノートなど

小学校授業実践２より

約束を守ることを決断した手品師は，何を大切にしたかったのだろうか。							
1	男の子の気持ち　お父さんお母さんがいなくて寂しそうにしていたが自分の手品を見て楽しそうにしていた！のが嬉しかった	2		3	・男の子の幸せや笑顔　・男の子との約束　・手品を楽しみにして来る男の子の気持ち	4	男の子の笑顔を大切にしたかったと思います。
6	自分のことを待ってくれている人を大事にしたいという心	7	みんなの笑顔	8	男の子との約束した思い。	9	男の子が、笑顔や元気になれるようにしたかっから、男の子を大切にした。
11	父を無くし母は仕事で居なくなって男の子は寂しかったと思ったから２回めも行って笑顔を取り戻そうとしたから	12	男の子のかなしさとくるしさがあたから。うらぎったら男の子の心がもたない。	13	男の子とした約束を大切にしたかった。	14	男の子の笑顔や男の子の楽しそうな顔を大切にしたかったのだろう。
16	男の子の笑顔を大切にしたかったから？	17	約束を守ることと期待を裏切らないようにすること	18	手品師が一番大切にしたことは、見てくれる人や待ってくれている人の期待を裏切らないことだと思います。	19	男の子の楽しみな気持ち。

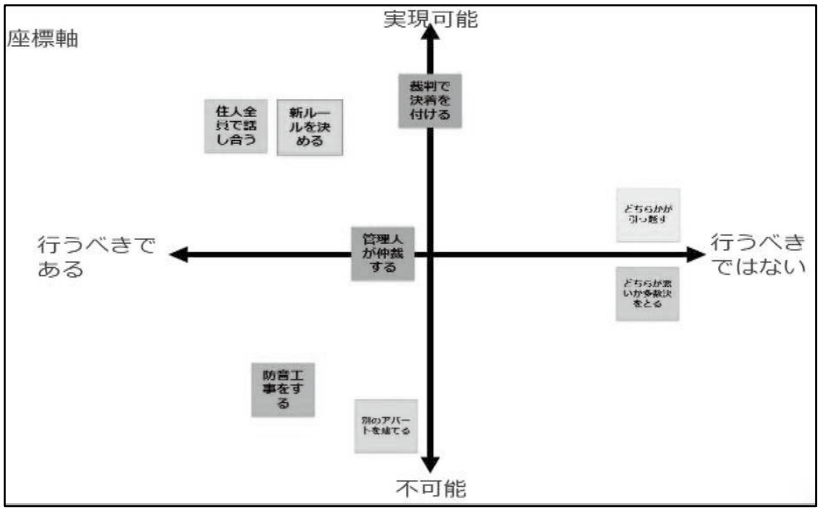
○　スプレッドシートを使用する場合は、学級の子どもの人数分のタブと集計用のタブを作成。子どものタブから、集計用のタブにデータが反映されるようにすることで、全体で共有できる。

○　全員の意見を集約することで、多様な考えを素早く知ることができる。

○　発表することに消極的な子どもにとっては、自分の考えを表現しやすくなると考えられる。

⑹　デジタルホワイトボードを用いた議論

→　jamboard など



○　Jamboardを使用する場合は、シートの背景を思考ツールに変更するなど、様々な形式で協働的に学ぶことが可能となる。端末上で付せんを活用して、思考を可視化しながら、話合いを進めることができる。また、まとめることが可能。

○　他の班のページを見ることで、多様な考えに触れ、多面的・多角的に考えやすくなると思われる。

⑺　振り返りを蓄積した学習記録

→　スプレッドシート、Excel、Forms など

番	題名	評価				感想
		今日の道徳の学習についてよくわかった	自分の考えを書いたり、発表したりすることができた	友だちや先生の話を聞いて、考えが広がった	今日の学習でわかったことを、これからの自分の生活に生かそうと思った	
1	やさしい人大さくせん	▾	▾	▾	▾	
2	あいさつをすると	▾	▾	▾	▾	
3	ヌチヌグスージ	▾	▾	▾	▾	
4	ツバメの赤ちゃん	▾	▾	▾	▾	
5	ゆうすけの朝	▾	▾	▾	▾	
6	しょうたの手紙	▾	▾	▾	▾	
7	いいち、にいっ、いいち、にいっ	▾	▾	▾	▾	
8	きまりじゃないか	▾	▾	▾	▾	
9	みささんのえがお	▾	▾	▾	▾	
10	二つの声	▾	▾	▾	▾	

○　スプレッドシートで作成した場合は、URL を作成し、「コピーを配布」にし、Classroom で配布する。これにより、それぞれの学習記録シートとして活用することができる。

○　子どもが今までの学習を時間や場所を問わず、振り返ることができる。

○　教師が自己評価や感想の変容を見取ることができ、学習評価の際にも活用することができる。

※　★は、「令和４年度　十勝教育研究所　協力員研究」において実践したもの

Ⅳ　研究のまとめ

1　研究の内容に関わる本時の検証

(1)　小学校

①　多面的・多角的に考える学習の工夫について

○　登場人物のどちらに共感できるかを問うことにより、子どもたちがまず自分事として考え、その後の友達との交流を通して多面的・多角的に考えることができた。

●　子どもたちから出た意見を関連付けて違う考えの子に指名したり、問い返しの発問をしたりすれば、より多面的・多角的な考えの深まりが期待できたと思われる。

Q: 今日学んたことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

今まではルールがないとうまくいかないと思っていたけれど、自分の意見も相手の意見も尊重できれば納得できるようになると思うので、お互いの気持ちを大切にして過ごしていきたいと思いました。

→「自分ならどうするか」という観点から自分の考えをもち、意見の異なる子と議論することで、多面的・多角的に考える様子が見られた。

②　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫について

○　子どもたちの意見が一度出た後､｢誠実とは自己犠牲か？」という問い返し発問をすることで、子どもたちは誠実かどうかを決めるのは何だろうかと考え、自分の考える誠実とはどのような判断基準なのかをより深く考えることができた。

●　教材から離れて自分自身との関わりの中で考える時間が不足していた。また、授業中の活動を全てＩＣＴで行ったが、全てをＩＣＴにする必要性は感じられなかった。

Q: 授業で学んだことは何ですか？

誠実とは「真面目で真っすぐな人」だと考えた。約束は守るべきだと思ったし、正しいことをして誠実に生きていきたい。

→「誠実とは何か」「誠実な行動とは何か」について友達と議論した後、道徳的価値について自分の経験や感じ方、考え方と照らし合わせるなど、自分自身との関わりの中で深めようとしている姿が見られた。

(2)　中学校

①　多面的・多角的に考える学習の工夫について

○　導入で内容項目に関する写真を提示して興味・関心を高めたり、議論する前に各自が端末に入力した意見を提示することで、多様な考えに触れることができ、一面的なものの見方から多面的・多角的に考えを広げていくことができた。

●　教材の「ごみ箱を増やすかどうか」についての意見だけでなく、みんなが気持ちよく生活する上で大切なことは何かという内容項目の｢遵法精神､公徳心｣に立ち返る手立てが必要であった。

Q:友達の意見で、いい考えだなと思ったものはありましたか？

ごみ箱が増えた場合の見た目や環境のことだけでなく、自分の意識を大切にするという、自分では思い付かなかったことを友達から聞き、自分の考えが深まりました。

→　ＩＣＴ活用のメリットである「瞬時の共有化」により、多様な考えをすぐに知ることができ、友達の意見との相違点や共通点を把握することで活発な議論となり、より多面的・多角的に考えることができた。

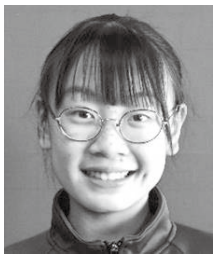
②　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫について

○　登場人物の心の弱さが見られた行動を３つに絞って考えることで、登場人物の行動をとおしながら、自分の心の弱さについても自覚しながら考えることができた。

●　登場人物の行動に共感できるかできないかについては活発に意見が出されたが、それを踏まえて自分の弱さをどう乗り越えるかとの関連が十分ではない子も見られた。

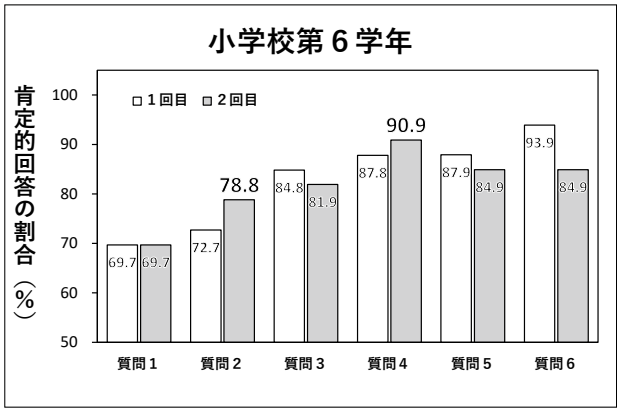
Q: 今日学んだことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

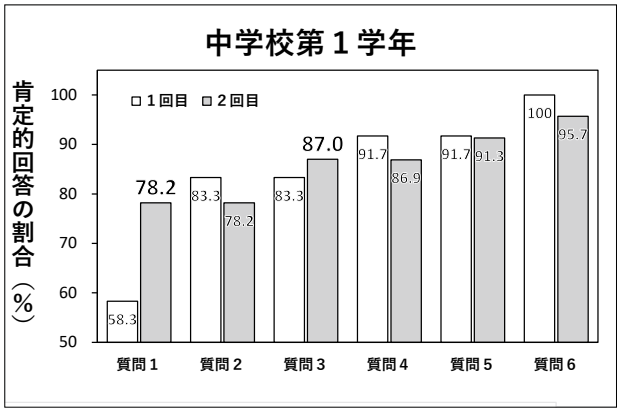
私自身にも心の弱さがあると思うので、不安になったりすることもあると思いますが、ちゃんと勇気を出して自分の意見を主張できるようになりたいと思いました。



→　自分自身と向き合う個人思考の時間を保障したことで、じっくりと自分の考え深めることができた。また、全体の意見を集約して提示する際には、ＩＣＴを用いることで話合いが焦点化されてより活発になり、子どもたちが考えを深めることができた。

2　アンケート結果からの検証



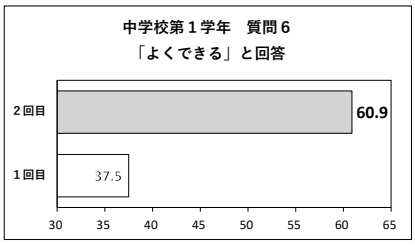


○　アンケート項目（小学校・中学校共通）

１	私は自分のよいところを知っています。	【自己肯定感・自尊感情】
２	私は友達や学級の役に立つことができます。	【自己有用感①】
３	私は学級で大切にされていると思います。	【自己有用感②】
４	私は困っていたり悩んでいたりしている人を助けることができます。	【他者への思いやり】
５	私は相手の考えや立場を考えて尊重することができます。	【他者の尊重】
６	私は他の人のよいところを自分に取り入れることができます。	【他者の受容】

今年度も研究の成果を様々な視点から検証できるように、小学校、中学校ともに、授業実践実施前に１回目、授業実践終了後に２回目のアンケートを実施した。回答形式は的確に実態を把握するため四者択一とした。例えば、質問１の選択肢は、「よく知っている・まあまあ知っている・あまり知っていない・知っていない」となる。それらのうち前者２つを肯定的回答として集計したものが上掲のグラフである。

自己肯定感･自尊感情､自己有用感といった「自己を肯定的に受け入れる心」に関する質問１～３では、小学校と中学校のどちらも肯定的回答がやや低い数値となった。ただ、中学校では、質問１での肯定的回答の数値が約20％の大幅な増加となり、自己肯定感・自尊感情が高まっていると思われる。小学校では、質問２での肯定的回答の数値の増加があり、自己有用感の高まりが実感できたと考えられる。一方、他者への思いやり、他者の尊重、他者の受容といった「他者を思いやり尊重する心」に関する質問４～６では、１回目から肯定的回答が80％以上の高い数値であったせいか、２回目は数値が減少した項目も見られた。数値の増加は小学校の質問４にとどまり、中学校でも肯定的回答の割合は微減傾向にあるが、最も肯定的な選択肢である「よくできる」の回答が、項目４では約５％、項目５では約20％、項目６では約25％の増加が見られ、他者への意識がより高まってきている子どもも増加していると思われる。



結果を総合的に考察すると、「他者を思いやり尊重する心」については、２回目に微減傾向にあるものの、小学校、中学校のどちらも高い数値を示しており、今後も他者を思いやったり、尊重し受容したりする姿が期待できると考えられる。一方、「自己を肯定的に受け入れる心」は、数値の増加が見られた質問もあったが、特に自己肯定感・自尊感情については小学校において数値の増加は見られず、大幅な増加があった中学校においても肯定的回答は80％を下回る数値となっており、やや課題が残っていることが明らかとなった。

３　研究内容の検証

⑴　多面的・多角的に考える学習の工夫について

○　友達との意見交流を通して、道徳的価値やそれに関わる事象を様々な視点から捉えることができ、様々な見方･考え方を働かせて、自分の考えを広げたり深めたりする様子が見られた。

○　子どもたちにとって身近なことや、自分自身の経験を想起させてから内容項目に迫ることで、道徳的価値やそれに関わる事象について自分事として考えることができた。

●　授業者が子どもたちの発言を認めたり受容したりするだけでなく、発言に対して問い返し発問をしたり、教材を通して内容項目について考えさせるという意識をもったりすることで、子どもたちはより多面的・多角的に考えることができるのではないかと考えられる。

⑵　自分自身との関わりの中で深める学習の工夫について

○　子どもたちの捉えた道徳的価値に対し、揺さぶる発問をすることで、子どもたちが違った角度からも再度思考でき、考えを深めさせることができた。

○　教材によっては、文章が長く内容把握に時間が掛かることがあるが、教材のポイントとなる部分に焦点化して考えさせることで、子どもたちは内容項目に関わる部分からそれぞれに考えることができた。

●　教材に対して考えを深めることはよくできたが、自分事として捉えることには課題が残った。

4　研究１年次の成果と課題

○　研究の内容１では、身近な題材から自分の経験を想起し、他者との考えを比較した後に全体で共有することで、多面的・多角的に考えることができた。さらに、授業実践を積み重ねていく中で、子どもたちが友達の考えや意見に対して肯定的に捉えようとしたり、学校行事での取組の中で学級が集団として成長したりするなど、学校生活全般においても他者を認める姿を目にすることが多くなった。

○　研究の内容２では、教材を構造的に捉えて話合いを焦点化し、全体で共有することで自分自身との関わりの中で深めることができた。さらに、授業実践を積み重ねていく中で、授業中に意見を表明することに対して消極的だった子どもが大きく減るなど、学校生活全般においても自分を認める姿が増えつつある。

○　ＩＣＴの活用は、導入でのモニターを使った提示や、「考え、議論する」際の集約・共有、振り返りなどにおいて、素早く全体で考えを共有できるなど、とても効果的であった。また、ＩＣＴはそのよさを効果的に生かすことのできる場面での使用が大切であると改めて感じた。

●　教材を通して、道徳的価値の理解を深めることが不十分であった。子どもたちの一面的な見方を揺さぶるような発問をすることで考えを広げるようにしたり、登場人物に自我関与して考え、議論した後に教材から離れて内容項目に関して大切なことは何かを考えたりすることで、子どもたちの道徳的価値の理解は更に深まったのではないかと考えられる。

●　研究の内容１では他者を思いやり尊重する心を、研究の内容２では自己を肯定的に受け入れる心を育むこととして研究を進めたが、どちらの内容も「他者」「自己」の両面に関わる部分があったため、育もうとする心を２つに分けるのではなく、それぞれの研究の内容の中で一体的に「自他を認め合う心」を育むこともできたのではないかとも思われる。

Ⅴ　研究協力校紹介／参考・引用文献

研究協力校	研究協力員
幕別町立札内南小学校　校長　髙　充　慶	金　谷　智　皓
士幌町立士幌町中央中学校　校長　小　室　彰　人	祢　津　豊

十勝教育研究所　担当　松村　理史　／　柴田　悠二

参考・引用文献

○　小学校学習指導要領（平成29年３月）　文部科学省
○　小学校学習指導要領解説　総則編（平成29年６月）　文部科学省
○　小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（平成29年７月）　文部科学省
○　中学校学習指導要領（平成29年３月）　文部科学省
○　中学校学習指導要領解説　総則編（平成29年６月）　文部科学省
○　中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（平成29年７月）　文部科学省
○　道徳教育キーワード辞典　ー用語理解と授業改善をつなげるためにー　東洋館出版社
○「特別の教科　道徳」で大切なこと　東洋館出版社
○　道徳的価値の見方・考え方　東洋館出版社
○　道徳科　授業構想グランドデザイン　明治図書
○『365日の全授業』ＤＸ　小学校道徳　明治図書
○　初めてでも大丈夫！道徳授業の本質を大切にしたＩＣＴ活用　ＥＤＵＣＯＭ